

【定期接種希望者用】

高齢者（23 価）肺炎球菌ワクチン接種説明書（2019年度版）

※必ずお読みください。

肺炎球菌とは

肺炎は、日本人の死因第3位であり、亡くなる方の95%以上は65歳以上の方とされています。肺炎の原因菌のなかでも最も多いのが肺炎球菌です。肺炎球菌による肺炎は、成人の肺炎25～40%を占め、特に高齢者での重症化が問題となっています。肺炎球菌ワクチンは、約80種類以上確認されている肺炎球菌のうち、23種類に免疫をつけることができ、成人の肺炎球菌による感染症の80%をカバーすることができます。

接種対象者 次のいずれかに該当する方

- ① 生年月日が下記の方で、肺炎球菌ワクチンの接種を受けたことがない方。
 - ・昭和29年4月2日生まれ～昭和30年4月1日生まれの方
 - ・昭和24年4月2日生まれ～昭和25年4月1日生まれの方
 - ・昭和19年4月2日生まれ～昭和20年4月1日生まれの方
 - ・昭和14年4月2日生まれ～昭和15年4月1日生まれの方
 - ・昭和 9年4月2日生まれ～昭和10年4月1日生まれの方
 - ・昭和 4年4月2日生まれ～昭和 5年4月1日生まれの方
 - ・大正13年4月2日生まれ～大正14年4月1日生まれの方
 - ・大正 9年4月1日以前の生まれの方
- ② 平成31（2019）年4月1日現在60歳以上65歳未満の方で、心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有し、肺炎球菌ワクチンの接種を受けたことがない方。

接種期間

平成31（2019）年4月1日～2020年3月31日まで

注）定期接種の機会は生涯1回のみです。5年ごとではございません。

接種費用（助成額）

医療機関の定める接種費用の内 3,500 円（生活保護受給者は 8,000 円を上限）が市から助成されます。医療機関の窓口では助成額を差し引いた額をお支払いください。

予防接種を受けることができない方

- * 明らかに発熱のある方（37.5℃以上）
- * 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- * 高齢者肺炎球菌予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシー（接種後約30分以内におこるアレルギー反応）を起こしたことがあることが明らかな方
- * その他、医師が不適切な状態と判断した場合

（裏面もお読みください）

予防接種を受けるに際し、注意しなくてはならない方

- * 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、免疫不全等の基礎疾患のある方
- * 今までに喘息と診断されたことがある人
- * 前回の予防接種を受けた時、2日以内に発熱、発疹、じんま疹などのアレルギーを疑う症状の見られた方
- * 薬の投与又は食事（鶏卵・鶏肉など）で発疹が出たり、異常をきたしたことがある方
- * 過去にけいれんの既往歴のある方
- * 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方

予防接種副反応

- * 接種部位の痛み、発赤、腫れがみられることがありますが、通常 1～2 日のうちに治ります。ときに軽い発熱がみられることがありますが、重症になるような反応はほとんどありません。
- * 予防接種を受けたあと、接種局所のひどい腫れ、高熱、ひきつけなどの症状があったら、医師の診察を受けてください。症状が予防接種副反応報告基準に該当する場合は、医師から国へ副反応の報告が行われます。重い副反応があった場合に、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期に予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象になります。

他のワクチンとの接種間隔

高齢者肺炎球菌ワクチンを接種した後、別の予防接種をする場合は、中 6 日以上の間隔を空けてください。また、生ワクチン（はしか等）を先に接種した場合は中 27 日以上、不活化ワクチン（インフルエンザ等）を先に接種した場合は中 6 日以上の間隔をおいてから接種してください。

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- * 予防接種後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- * 副反応の多くは 24 時間以内に出現しますので、特にこの間は注意しましょう。
- * 入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。
- * 接種当日はいつもどおりの生活でかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

【問合せ先】

下野市健康福祉部健康増進課 ☎32-8905